

[博士論文審査要旨]

申請者：飯塚隼光

論文題目 シンプル管理会計の研究—株式会社アライヘルメットの事例から

審査員 挽 文子  
尾畑 裕  
佐々木隆志

本論文は、ライダーの頭を護ることを経営の根幹に据えた企業で採用されている管理会計の検討を通じて、中小企業における管理会計のあり方を明らかにしようとした研究である。数でいえば、日本の大多数の企業は今日においても中小企業である。中小企業を対象とした管理会計研究は少なくとも1960年代まで遡れるが、それが脚光を浴びるようになったのはこの十数年であり、本論文はこの潮流に位置づけられる研究である。インタビュー調査と一般に入手可能なデータに基づいて、株式会社アライヘルメットの上記理念に沿った経営全体の仕組みの実態を定性的に明らかにしつつ、その中での管理会計の実践を検討している。

本論文の貢献は、こだわり企業、しかも創業以来無借金経営で非上場の財務的に問題がない企業で採用されている管理会計を研究対象とすることで、管理会計に求められている本質的な役割を明らかにしたことである。中小企業の管理会計採用に影響を与える要因や管理会計利用のアウトカム等について研究が蓄積されつつあるが、本論文は、理念コントロールが非常に強く、先行研究で指摘されてきた要因が存在しない状況における管理会計の実践を検討したうえで、シンプル管理会計という新たな視点を提示したことが評価できる。

ただし、この研究にも問題がないわけではない。定性的な事例研究では、研究目的に照らして適切なインタビューの確保、研究者の聞き取りと解釈能力、ならびに情報の信頼性の確保が不可欠である。集権的なオーナー企業をリサーチサイトとしている割にはトップへのインタビューの内容と時間がともに必ずしも十分とはいえず、また直接引用や情報量が圧倒的に少ない。もっとも、これらの問題点は申請者の今後の研究で克服されていくべき問題であり、本研究の価値を損なうものではない。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士(商学)の学位を受けるに値するものと判断する。